

セイヨウオオマルハナバチ

目科名：ハチ目ミツバチ科
学名：*Bombus terrestris*
原産地域：ヨーロッパ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来ハチの駆逐・遺伝的攪乱

- ・交雑や営巣環境の競合による在来マルハナバチ類の減少
例) 北海道の一部地域では、セイヨウオオマルハナバチの増加に伴い、エゾオオマルハナバチが減少
- ・在来送粉昆虫とのエサをめぐる競合
- ・在来マルハナバチ類により受粉されていた植物が、繁殖できなくなるおそれ

北海道では高山帯でも生息が確認されているため、長野県で定着した場合にも高山帯に進出するおそれ



【生息場所・食べ物】

- ・春に女王バチが土の中や地表に巣を作り、働きバチを育てる
- ・多様な花を訪れ、花蜜や蜜を集める（決まった傾向はない）

【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・2001年に諏訪市、2002年に飯田市で確認
- ・2019年12月現在、自然分布なし

全国では

- ・1991年に静岡県農業試験場で試験導入された後、全国各地で花粉媒介を行う農業資材として導入
- ・1996年に北海道で女王バチの野外越冬や巣を確認
- ・2018年までに28都道府県で目撃情報あり



<体長>
女王バチ 19~23mm
雄バチ 約20mm
働きバチ 12~17mm

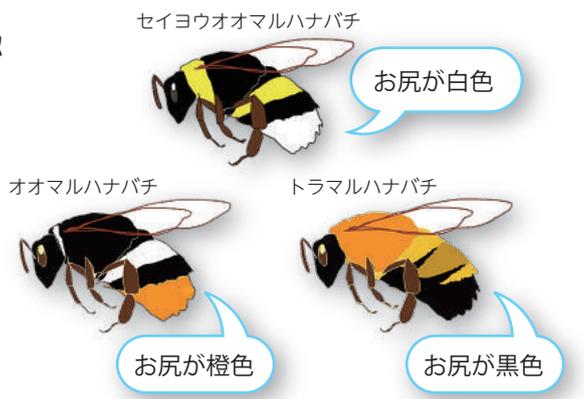
【間違わないで！】

- ・日本在来のマルハナバチ属は15種、そのうち長野県では10種が確認
- ・在来マルハナバチで、毛色のパターンが似ている種はいない
- ・体の大きさは、セイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチとで、ほとんど差はない

オオマルハナバチ
(在来種)



トラマルハナバチ
(在来種)



農家の方へ

- クロマルハナバチ（在来種）への転換を環境省及び農林水産省が推奨しています！
- セイヨウオオマルハナバチを飼養する場合は外来生物法に基づき国（環境省）の許可が必要です
使用時は、以下の点に注意して下さい

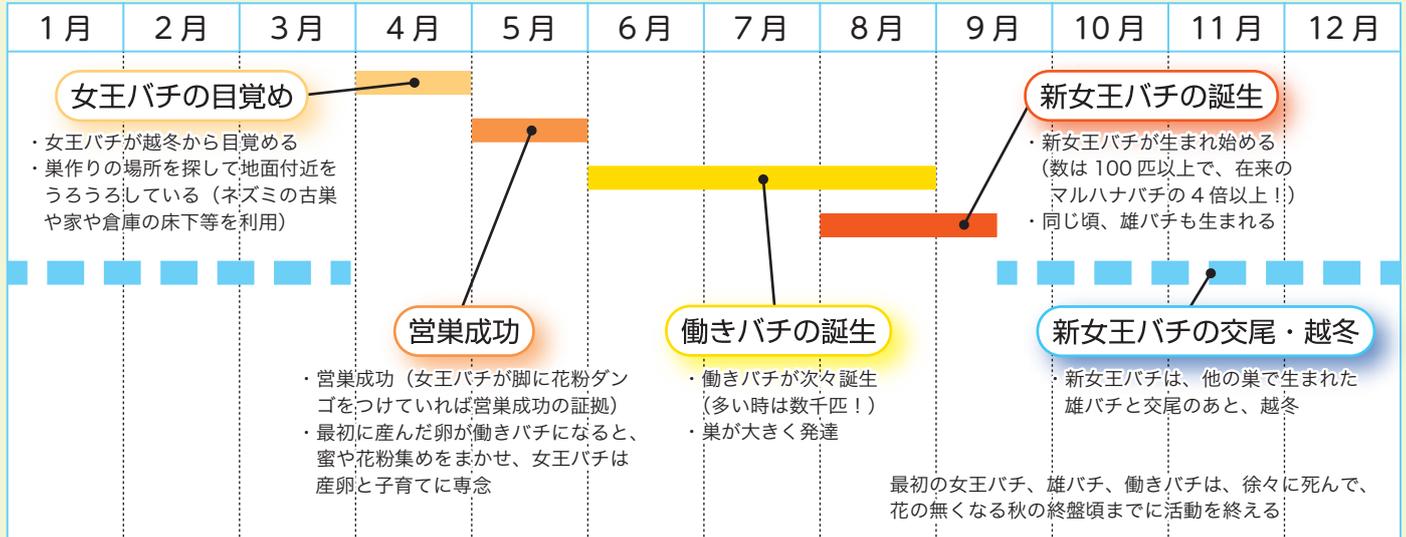
- ・開口部にネットを張り、ハウスからの逸出を防止すること
- ・外部との出入り口の戸は二重以上とすること
- ・ハウス外で巣箱を運ぶ際は、二重囲いにすること
- ・使い終わったハチは確実に処分すること

【発見したときは】

- 疑わしいハチを見つけたら、可能な範囲で大きさが分かるよう写真を撮る
- 同じようなハチが発見現場の周りにいないか観察する
- お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する

【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



【防除方法】

通報 早期発見が最も重要！

- 疑わしいハチがいたら、市町村または県に連絡をする
※捕獲しても生きたまま別の場所に移動させないこと

女王バチ・働きバチの捕獲（4～6月） 根絶を目指す

- 女王バチの捕獲で営巣を阻止、働きバチの捕獲で巣の発達を阻止する
- 花粉や蜜を集めるために花を訪れている時が捕獲しやすい（ハチの動きがゆっくりになるため）
- 捕虫網等を利用して捕まえる
- 捕まえた後は、エタノールや殺虫スプレー等で駆除する

巣の駆除（7～9月） 根絶を目指す

- 巣を取り除くことで、新女王バチの誕生を阻止する
- 7～9月は巣が見つかりやすいので、この時期に巣を取り除く
- 巣の出入口をふさぎ殺虫剤を噴霧する等して取り除く
- 巣の排除は、新女王バチが生まれる前までに実施するのが効果的

新女王バチの捕獲（8～9月） 根絶を目指す

- 新女王バチを捕獲することで、翌年の巣の誕生を阻止する
- 新女王バチは、越冬までの間、巣から出て飛び回っている
- 捕虫網等を利用して捕まえる
- 捕まえた後は、エタノールや殺虫スプレー等で駆除する

ミツバチ等と比べるとおとなしいハチだが、素手で触ると針で刺されることもあるので注意する

【刺されたときは】

- ポイズンリムーバーで毒を吸い出す
- 患部をしぼるようにしながら流水で毒を流し、ばんそうこう等で患部を保護する
- 顔面蒼白、全身の震え、嘔吐等の症状が出た場合は、すぐに医療機関を受診する
- 受診時は、「ハチに刺されたこと」、「アナフィラキシー症状の可能性があること」を伝える



ポイズンリムーバー